

第1学年2組 音楽科学習指導案

1 題材名 ようすをおもいうかべよう

教材名 「おどるこねこ」 アンダソン 作曲 (鑑賞)

「はる なつ あき ふゆ」 三浦真理 詞・曲 佐藤俊彦 編曲 (歌唱)

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

B 鑑賞 (1) ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと

[共通事項] ア 音楽を形づくっている要素のうち、次の(ア)及び(イ)を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア)音色、拍の流れ

(1)題材観

現代の生活の中で、常に様々な音楽が溢れている。テレビをつければ音楽番組が流れたり、お店や施設に行けばBGMが流れていたり、小学1年生でも、既に生活の中で多くの音楽に触れ合っている。また、義務教育の9年間の中でも授業を通じて多くの音楽に出会う。音楽の楽しみ方を広げてより心を豊かにするために、9年間を見通した指導が必要になってくる。

本題材は、楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり歌ったりする力を養うことをねらいとする。「鑑賞」では、児童が音楽の流れに溶け込み、楽曲全体を聴いて、その素晴らしさに気付くようにするために、発達段階に応じて指導していく必要がある。低学年では「楽曲の気分」を感じ取って聴くこと、中学年では「曲想とその変化」を感じ取って聴くこと、高学年では「曲想とその変化などの特徴」を感じ取って聴くことができるように、指導していく。1年生の段階で「楽曲の気分」を感じ取って聴き、児童一人一人の自由な感じ方を認めて、楽曲を聴くことに親しみをもてるように指導したうえで、歌声で表現することにつなげていきたい。

題材で使用する楽曲「おどるこねこ」は、楽曲の気分の変化から場面の様子が移り変わっていくさまを思い浮かべながら音楽を聴く教材として、最適である。楽曲の気分が変化していく構成や、最後に犬の鳴き声が入っているところなど、ストーリーを感じる楽曲である。物語を想像して思いを広げながら自由に体を動かすことで、楽しんで楽曲の気分を感じることができるのではないかと考えた。「はる なつ あき ふゆ」は、歌詞の移り変わりから情景を想像しやすい楽曲である。場面の移り変わりを聴く活動を通して、歌唱の活動に取り組むことで、感じ取ったことを表現する面白さを感じられると考え、題材を設定した。

(2) 児童の実態 (男子14人 女子15人 合計29人)

①調査結果

鑑賞で用いた楽曲 つかませたかった要素	「ひらいたひらいた」 強弱の違いに気付く	「かたつむり」 リズムの特徴を捉える
初発の鑑賞で達成した	5人	2人
体を動かす活動を通して達成した	21人	3人
友達との交流を経て達した	3人	14人
達したのは次時以降だった	0人	10人

②考察

本学級は、明るく素直な子どもが多く、感じ取ったことに対して直感的に体を動かして表現する児童が多い。これまでの学習で「ひらいたひらいた」や「かたつむり」などを鑑賞する際に、曲に合わせて体を動かす活動を行ってきた。「ひらいたひらいた」では、全員で強弱に合わせて輪を大きくしたり小さくしたりすることで、強弱の違いに気付き、歌唱表現に生かして歌うことができた。その後、個人で活動を行っても、強弱を捉えながら表現する姿が見られた。

「かたつむり」では、符点八分音符のリズムと四分音符のリズムの違いに触れた。前時にかたつむりのしぐさを真似てフレーズごとにリレーして歌う活動を行い、符点八分音符と四分音符のリズムの違いに気付かせようとしたところ、符点八分音符と四分音符で動きの違う反応を見せた児童は2名だった。そこで、お互いの動きが見合えるように輪に並んで歌わせ、リズムの違いを感じ取って符点八分音符で弾むように体を上下に動かしている児童を紹介したところ、10名の児童がリズムの違いを捉えて歌うことができるようになった。教師が児童の活動に価値づけを行ったことで、リズムの視点でも音楽を感じ取ることができるようになり、表現に生かそうとする姿につながったと考える。

以上のことから、本題材でも体を動かす活動を取り入れて、様々な感性を認めていき、正しく拍や速度を感じ取る力をつけさせたい。

(3)指導観

本題材では、教材として「おどるこねこ」(ルロイ・アンダソン)を取り上げる。この楽曲は、codaがついた複合三部形式(A-B-A'-coda)で構成されたオーケストラの演奏である。身近な動物として親しまれている猫をテーマとし、ワルツのリズムにのって踊っている様子を思い浮かべることができる。

Aはバイオリンのポルタメント奏法での猫の鳴き声を模倣しているため、鳴き声を口ずさんだり鳴き声を真似したりすることで、バイオリンの音色に着目させたい。Bは、Aで使われている猫の鳴き声が聴こえなくなり、短い音の旋律やパーカッションの音色から「猫が飛び跳ねている」など、Aとは異なる様子を思い浮かべるのではないかと考える。その際、それぞれの場面で、児童とのやりとりを大切に授業を展開していきたい。また、一人の意見をみんなで真似しながら体を動かすことで、学びの共有が出来るとともに、楽曲の気分に気付くための手助けとなると考える。

これまでの鑑賞では「ひらいたひらいた」や「かたつむり」、「うみ」など、歌詞のついている楽曲を扱ってきた。「おどるこねこ」では、楽器の演奏の仕方を含めた音色等を手掛かりに、音楽から楽曲の気分を感じ取る力をつけさせたい。そのために、「何の動物を表現しているか」「鳴き声はどこで出てくるか」「鳴き声の演奏はすべて同じか」等のように、注目するポイントを変えながら繰り返し聴くことで楽曲に親しむようにし、音からイメージを膨らませることの楽しさを味わわせたい。

3 題材の目標

- 楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴く。
- 歌詞の表す様子や気持ちを想像して、歌い方を工夫することができる。

4 題材の評価規準及び学習活動の具体的評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
場面の様子を思い浮かべながら聴いたり歌ったりする学習に楽しく取り組もうとしている。	歌詞の表す情景を想像したり楽曲の気分を感じ取ったりして、歌い方を工夫している。	歌詞の内容や楽曲の気分を感じ取り、表情豊かに歌っている。	楽曲の気分を感じ取ったり、場面の様子を想像したりしながら聴いたり歌ったりしている。

5 研究の視点について

【視点1】 9年間を見通した学び方の共有

(1) 指導要領の関連

		現行指導要領（平成20年度告示）における鑑賞の指導事項
小学校	第1学年及び第2学年	ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。
	第3学年及び第4学年	ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。
	第5学年及び第6学年	ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。
中学校	第1学年	ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。 ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。

	第2学年 及び 第3学年	ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。 ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。
--	--------------------	--

(2) 視点に関わる手立て

指導要領上の「鑑賞」の指導内容を見ていくと、発達段階を追うごとに音楽を聴く視点が明確になっていき、音楽を形づくっている要素の働きを捉えていけるよう指導していくこととなっている。更に、児童・生徒が音楽の特徴を捉えて自らの考えをもつことができるよう指導していく必要があると考える。

そこで、小学校第1学年の段階では、児童が音楽を聴く楽しさを十分に味わうことができるように、楽曲の気分を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素の働きに気付いたりできるような指導をしていきたい。そのために以下の手立てを講じる。

○【発言や行動の根拠を問いかけ、想像したことや感じ取ったことを「引き出す」】

児童の思考は目に見えない。そこで、児童の発言や行動を見取り、なぜそのような発言・行動に至ったのか問いかけて、児童の思考を引き出していく。児童は、自分なりの言葉で発言や行動の根拠を伝えようとするだろう。その際の一人一人の感じ方のよさを認めていくことを大切にしたい。

このことは、児童が直感的に思い浮かべたことに対して、教師がその根拠を引き出して価値づけることになる。ワークシート等に記述することが難しい発達段階において、教師が児童の発表やつぶやきを拾って本時のねらいにせまっていくことは、児童が自分の考えに自信をもつだけでなく、音楽を形づくっている要素やその働きについての知識を蓄えていくことにもつながると考える。

本時においては、活動3で児童がB部分を初めて聴く活動で、特徴的な楽器の音色を演奏して聴かせたり、「なぜ、そのような発言・動きになったのか。」を問いかけたりする。そこに、教師が音楽的な要素とのかかわりを補足しながら、考えのよさを認めていくことで、児童の発言や動きの根拠を引き出し、児童が感じ取ったことと音楽を特徴付けている要素と結び付けることができる。そうすることで、児童は自分の考えに自信をもったり新たな考えに気付いたりしながら、音色や拍の流れ等の音楽的な知識を蓄えていくようになると考える。

このような手立てで鑑賞活動に取り組んだ児童は、音楽的な知識を明確にもつようになり、徐々に音楽を形づくっている要素に自ら気が付くようになっていく。これは、いずれ自分が感じ取ったことに対して、根拠をもって説明できる力につながっていく。最終的には、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、明確な根拠をもって自らの考えを伝えられることにつながっていくと考える。

6 題材の指導計画及び評価計画(5時間扱い)

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次	ねらい おんがくのかんじがかわるところにきをつけてききましょう		
	第一時	<p>「おどるこねこ」(Aのみ)(鑑賞)</p> <p>○音色や拍の流れに気を付けながら聴き、体を動かしながら楽曲に親しむ。[音色、拍の流れ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな動物が出てくるのか想像しながら、音色に気を付けて聴く。 ・猫の鳴き声を表しているのがバイオリンであることを知り、音色の面白さに気付く。 ・猫の気分になって拍に合わせてながら体を動かし、楽曲に親しむ。 	<p>想像したことや感じ取ったことを言葉や体を使って表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【音楽への関心・意欲・態度① 行動観察、発言内容】</p>
	第二時(本時)	<p>「おどるこねこ」(A-B-A'-coda)(鑑賞)</p> <p>○場面の様子を思い浮かべて、楽曲の気分を感じ取って聴く。[音色]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bの部分聴き、どんな音からどんな感じがするかを話し合い、みんなで猫の真似をする。 ・AとBを続けて聴くことで、様々な猫の気分を感じ取る。 ・曲全体を聴き、猫になったつもりで体を動かす。 	<p>楽曲の気分を感じ取ったり、場面の様子を想像したりしながら聴いている。</p> <p>【鑑賞① 行動観察、発言内容】</p>
	ねらい かしをたいせつにしよう		
第二次	第一時	<p>「はる なつ あき ふゆ」(歌唱)</p> <p>○歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つの場面絵を見て、そこから聞こえてきそうな音を想像する。 ・縦書きの歌詞を声に出して読む。 ・四季の移り変わりや、それぞれの場面の様子を思い浮かべながら歌う。 	<p>歌詞の表す様子や気持ちを想像してどのように歌うかについて思いをもっている。</p> <p>【音楽表現の創意工夫① 発言内容、表情観察、演奏聴取】</p>
	第二時	<p>○歌詞の表す様子や気持ちに合う表現の仕方を工夫しながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番から四番の場面に合う表現の仕方を話し合う。 ・場面を想像し、強弱や速度に変化を付けて歌う。 ・言葉を丁寧に発音して、縦書きの歌詞を読む。 	<p>歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。</p> <p>【音楽表現の創意工夫② 発言内容、表情観察、演奏聴取】</p>

第三時	<p>○歌詞の表す様子や気持ちに合う表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて場面を分担し、表現の仕方を工夫する。 ・工夫した歌い方を互いに聴き合う。 ・四つの季節をつなげ、全体を通して歌う。 	<p>歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。</p> <p>【音楽表現の技能① 演奏聴取】</p>
-----	--	--

7 本時の学習（2 / 5）

(1) 本時の目標

○場面の様子を思い浮かべて、楽曲の気分を感じ取りながら聴く。（鑑賞）

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準(評価方法)	資料・教具
5分	<p>1 前時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aでの猫の様子を発表する。 <p>T:「前に聴いた時、どんな動物の鳴き声がありましたか。」</p> <p>S:「ねこ。」</p> <p>T:「ねこはどんな様子でしたか。」</p> <p>S:「踊っている感じ。」</p> <p>S:「三拍子のリズムに合わせて踊っている。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bの始めまで曲に合わせて体を動かす。 	<p>○A と B との違いをはっきりさせるために、復習の中でAの特徴をおさえておく。</p> <p>○自然に続きがあることを知るができるように、Bを流すことは予告せずに曲を流す。</p> <p>○この楽曲には続きがあることを知らせる。</p>	
25分	<p>2 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ねこのようすをおもいうかべながらきこう。</p> </div> <p>3 Bの特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bの部分を聴き、猫の様子を思い浮かべる。 	<p>○どんな感じがするのか、児童から出た意見を板書していく。</p>	<p>掲示物①</p>

10 分	<p>T:「ねこはなにをしているのでしょうか。」 S:「ジャンプした」① S:「逃げて行った」② S:「走った」② T:「どうしてそう思ったのですか。」 S:①「ピューンっていう音がしたから」 S:②「曲が速くなったから」</p> <p>・猫の様子を思い浮かべながら体を動かしてみる。</p> <p>4 猫の気分に合わせてAから通して体を動かしてみる。</p> <p>・A´の部分で元に戻ったことを確認する。 S:「また最初と同じのが出てきた」 S:「またゆっくり踊り始めた」 S:「喧嘩したけど、仲直りしてみたい」 S:「大忙しだったのが、落ち着いたみたい」</p> <p>・codaの部分でねこなどの様子を確認する。 S:「犬の鳴き声が出た。」 S:「猫が逃げて行った。」</p>	<p>○児童の発言がどの部分を指しているのか、部分的に曲を流しながら確認する。 ○一人の児童の意見から、他にも同じ考えの児童はいないか問いかけることで、学びの共有を図る。</p> <p>○楽曲の音色から様子を思い浮かべられるように、スライドホイッスル等、特徴的な音色の楽器を用意しておく。</p> <p>◆想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。【鑑賞①】</p> <p>○ジャンプしていたりひっかいていたり等、楽器の音色に関連する動きをしている児童を紹介する。</p> <p>○新たな要素に気づくよう、友達の動きを真似てもよいことを伝える。</p> <p>○変わったところが分からなそうな児童に対しては、バイオリンの旋律や音色に着目して、Aと似ていることに気付くように声を掛ける。</p> <p>◆想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。【鑑賞①】</p> <p>○codaまで通して流す。</p>	<p>揭示物②</p> <p>揭示物③</p>
---------	--	---	-------------------------

5分	5 A-B-A'-coda まで、一通り猫の真似をしながら聴く。	<p>○A-B-A'-coda だけに捉われず、場面が変わりそうなところやAの中でも早くなるところなど、要素と感じ方を結びつけて動くことができている、認める。</p> <p>◆想像したことや感じ取ったことを体で表すなどして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。【鑑賞①】</p> <p>○楽曲の気分を感じ取ることが、他の楽曲を鑑賞する時や、表現することにも繋がっていくことを伝え、次時に繋げていく。</p>	(掲示物④)
----	----------------------------------	--	--------

板書計画

